学校運営協議会　議事録

校名	府立だいせん聴覚高等支援学校
校長名	藤田　太朗

開催日時	令和６年11月７日（木）
開催場所	だいせん聴覚高等支援学校　大会議室
出席者(委員)	植田紀美子　委員、澁谷栄作　委員、落合聖司　委員、前田浩　委員、 井上洋　委員、山﨑明美　委員
出席者(学校)	校長、教頭、首席２名、部主事、進路指導部主任、教務部主任 本１学年主任、事務長
傍聴者	なし
協議資料	令和６年度　学校経営計画　進捗状況　他
備考	

議題等(次第順)

1　開会挨拶　　2　協議　　3　保護者からの意見書について　　4　その他【事務局】

協議内容・承認事項等(意見の概要)

各委員からのご意見
2　協議
1)令和6年度　学校経営計画　進捗状況について【校長】
特になし

2)分掌再編業務への取り組みについて【一宮】
3)中学生向けPR方法の検討と教員研修【中野】
・補聴器などの支援も増えているので、インクルーシブ教育の流れからも地域の学校に進む生徒が増えている。聴覚支援学校の役割は、「わかる授業をする」ことであり、特に集団で議論をする機会を作ってほしい。
・進路を選ぶ理由として、地域の学校に行く生徒は、「狭い世界が嫌。知らない世界を知りたい」という理由でした。他の生徒は「先輩がいるから」が一番大きい理由でした。どの家庭も最終的には、本人の希望に沿います。
・クラブ活動で学校を選ぶ生徒も多いです。
・以前からだいせんを知っている子どもが、だいせんを選んでいると思う。さらに増やすなら、SNSでの広報は良い方法だと思う。若い人はSNSで情報を取るので、あとはコンテンツがどれだけ心に刺さるか。何が刺さるかもわからないので、いろいろ考えながら作るしかない。
・地域の学校に進学しても、いざ進学や就職になって困っている人もいる。地域の学校に進学した生徒の苦労を把握し、その上で「だいせんに来ればこんなフォローができます」とPRするとよい。
・先輩や保護者間の情報が必ずしも正しいとは限らないので、学校としてだいせんだから提供できる情報をメッセージとして出すことができればよい。教員には当たり前でも、保護者には知らないこともあるので、様々な分野で活躍している人を紹介したり、低年齢からだいせんを見せるのもよいと思う。

4)万博STEAM教育　進捗状況について【世森】
・良い取り組みだと思う。チームで話し合うのが苦手な生徒が多いので、自分の願いや意見を伝えて、他の人の意見を聞くということができればよい。

5)学校生活の手引き　見直しについて【森田】
・仕事するにふさわしくない髪型や化粧は禁止なので、派手にならない範囲で、何が自分に合っているか考えればよい。
・周りに悪影響さえなければよい。
・外見の身だしなみも大切だが、「言葉の身だしなみ」が大切。丁寧な話し方を心がけてほしい。

6)令和7年度使用教科用図書　採択について【吉竹】

3　保護者からの意見書について【事務局】
・ 意見書の提出はなし

次回の会議日程

日時	令和6年2月13日（木）10:00～
会場	大阪府立だいせん聴覚高等支援学校　大会議室